

プラズマ宇宙論による解説

銀河系には2000億個から4000億個の恒星があります。

恒星と恒星の間は星間プラズマ(銀河宇宙線)で満ちています。

射手座方向にある銀河中心核には巨大ブラックホールがあります。ブラックホールに星間プラズマの質量の大きな原子核(正電荷)が優先して渦を巻きながら落ちてゆきます。

この時ブラックホールの周りには膠着(こうちゃく)円盤ができます。膠着円盤は発電機を形成し銀河軸方向に電子JETを噴出します。その為、銀河中心核はプラス電位となり銀河の腕には電子の流れが出来るのです。この電子の流れをビルケランド電流と言います。

天の川銀河の想像図

銀河系中心

天の川銀河の中心から太陽系までの距離

26100 光年

太陽系

距離と運動が測定された天体

240 km/s

太陽系の銀河回転の速度

銀河の腕にビルケランド電流が流れるときアンペールの法則に従い銀河中心核に磁気力で結合した細長いストロー構造がたくさん出来ます。

このストロー構造を銀河プラズマフィラメントと言います。

またストロー構造の磁気の壁を銀河プラズマフィラメントの磁気の壁と言います。

銀河中心核が回転するとき、磁気力で結合しているストロー構造も一緒に回転します。太陽系はストロー構造の中にあります。

ストロー構造が回転するとき太陽系は400年に一度くらいの割合でストロー構造の磁気の壁、銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突して跳ね返るのです。

今がまさしくその時なのです。

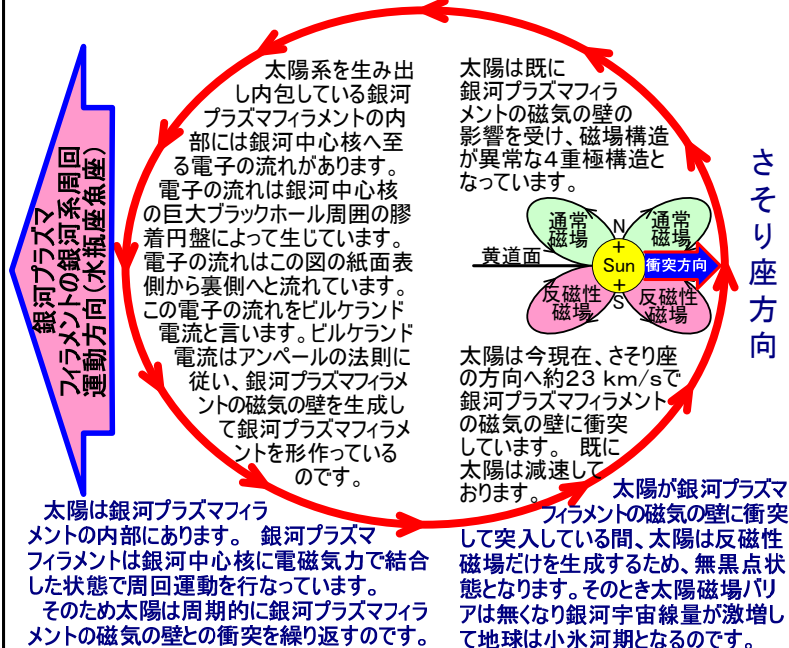
銀河系の直径は約10万光年、厚みは約1000光年です。イメージはCDディスクです。

天の川銀河を斜めから見た想像図

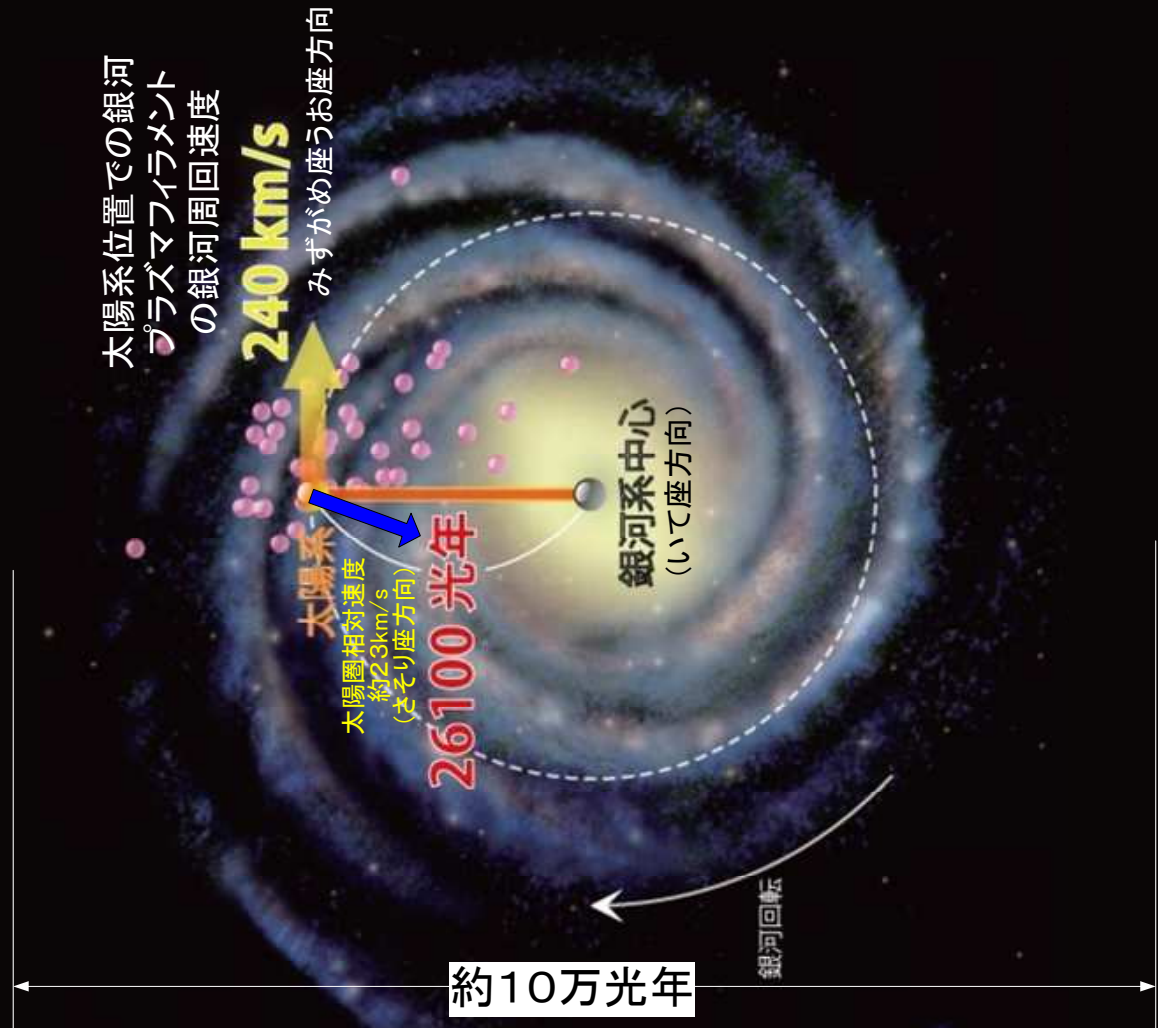
プラズマ宇宙論による解説

太陽は銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突して跳ね返る反磁性体です。太陽は今現在、さそり座の方向へ約23 km/sで銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に衝突しつつあり、減速しています。太陽はこの後、2035年には銀河プラズマフィラメントの磁気の壁に突入し跳ね返り運動を起こします。

銀河中心核に電磁氣的に結合したストロー構造である銀河プラズマフィラメントの断面図



銀河系を水平方向から見た様子(想像図)



銀河系を垂直方向から見た様子(想像図)